

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 12 月 5 日 (2019.12.5)

【公開番号】特開 2018-89080 (P2018-89080A)

【公開日】平成 30 年 6 月 14 日 (2018.6.14)

【年通号数】公開・登録公報 2018-022

【出願番号】特願 2016-234523 (P2016-234523)

【国際特許分類】

A 6 1 B 3/028 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 3/02 A

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 10 月 28 日 (2019.10.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

視標光束を出射する視標呈示部を有し、前記視標呈示部から出射された視標光束を被検眼に向けて投影する投影光学系と、
前記投影光学系を収納する筐体と、
前記視標呈示部とは異なる部材であって、前記視標呈示部の周辺を面発光させる発光手段と、
を備えることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項 2】

請求項 1 の自覚式検眼装置において、
前記筐体の内部から前記筐体の外部へ射出された前記視標光束の光学特性を変更する眼屈折力測定ユニットを備えることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項 3】

請求項 2 の自覚式検眼装置において、
前記筐体と前記眼屈折力測定ユニットは近接して配置されていることを特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 のいずれかの自覚式検眼装置において、
前記発光手段は、前記視標呈示部の周囲を囲んで配置されていること特徴とする自覚式検眼装置。

【請求項 5】

視標光束を出射する視標呈示部を有し、前記視標呈示部から出射された視標光束を被検眼に向けて投影する投影光学系と、
前記投影光学系を収納する筐体と、
前記筐体の内部から前記筐体の外部へ射出された前記視標光束の光学特性を変更する眼屈折力測定ユニットと、
前記視標呈示部とは異なる部材であって、前記視標呈示部の周囲を囲んで配置され、前記視標呈示部の周囲を面発光させる発光手段と、
を備え、
前記筐体と前記眼屈折力測定ユニットは近接して配置され、

前記発光手段は、前記発光手段の中心領域に開口部を有し、
前記視標呈示部は、前記開口部に配置されることを特徴とする自覚式検眼装置。

—